

桔梗が丘のまちづくり



平成28年2月20-21日
桔梗が丘自治連合協議会

目次

1. 名張市／桔梗が丘の紹介
 - ◆ 位置・人口
 - ◆ まちづくりの経緯
2. 桔梗が丘自治連合協議会
 - ◆ 組織と役割について
 - ◆ 組織運営と合意形成、事業評価プロセス
3. 地域ビジョン策定プロセス
4. 課題と解決への取組み
5. みんなで汗をかく
6. まとめ

1. 名張市／桔梗が丘の紹介

◆ 名張市

- ◆ 面積：129.77km²
- ◆ 人口：80,684人、33,213世帯(H27/6/1)、65歳以上人口27.8%(H27/6/1)

◆ 桔梗が丘

- ◆ 面積：3.13km²
- ◆ 人口：13,923人、5,682世帯(H27/6/1)、65歳以上人口 29.0%(H25)、24の自治会
- ◆ 歴史：大阪のベッドタウンとして市内で最初に開発された住宅団地、昭和40年入居開始



1-1. 名張市／桔梗が丘の紹介

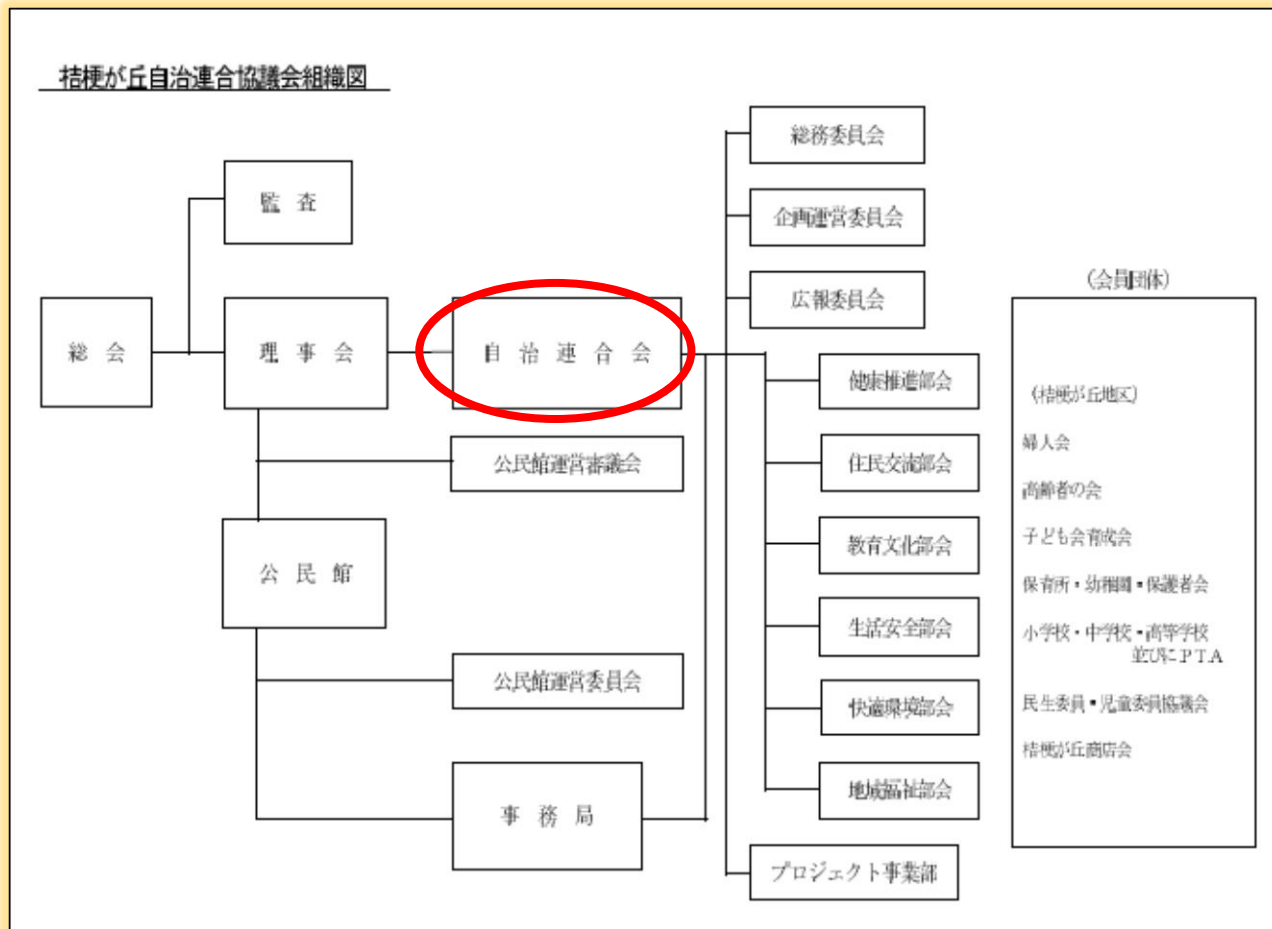
◆ まちづくりの経緯

年度		名張市	桔梗が丘
H7頃～	1995～	市内でいくつかの自発的まちづくり組織発足	
H11	1999		桔梗が丘まちづくり協議会発足
H14	2002	住民投票にて合併ではなく単独市制を選択	
H15	2003	ゆめづくり地域予算制度創設	桔梗が丘まちづくり委員会発足
H17	2005	名張市自治基本条例施行	
H21	2009	名張市地域づくり組織条例施行 ※)(区長制度廃止)	桔梗が丘自治連合協議会発足
H23	2011	市内15のすべての地域づくり組織で地域ビジョン策定	桔梗が丘地域ビジョン 桔梗が丘”ほっとまち”構想策定 (7つのプロジェクト事業計画)
H24	2012	地域部設置 ゆめづくり協働事業提案制度開始	
H25	2013	ゆめづくり協働事業実施スタート	ゆめづくり協働事業として 1)「ふれあい茶房」開設 2)「子どもたちと地域の絆づくり事業」開始
H26	2014		ゆめづくり協働事業として 3)みどり環境整備保全事業開始 4)住居表示設置事業開始 5)桔梗が丘農楽園事業開始
H27	2015		ゆめづくり協働事業として 6)桔梗が丘お助けセンター事業開始

※)それまでは区長(自治会長)がまちづくりの役割を担っていた

2. 桔梗が丘自治連合協議会

◆ 組織と役割について(組織図:H27版)

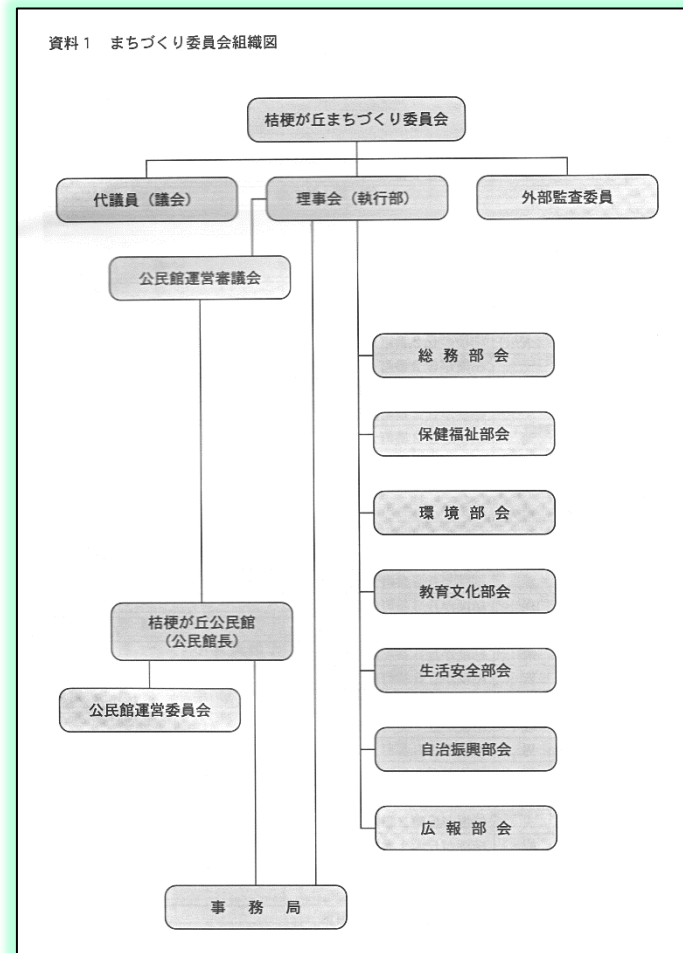


- ◆ 自治連合会=24自治会(区)は、日々のコミュニティー活動(各自治会の事業)を担うとともに、従来より、行政と地域コミュニティーを繋ぐ大きな役割を担ってきた組織体である
- ◆ 同時に桔梗が丘自治連合協議会の基である

2-1. 桔梗が丘自治連合協議会

- ◆ 組織と役割について(参考組織図:H21まちづくり委員会版)

- ◆ 現在の自治連合協議会組織との決定的な違いは、当時の区長会、今でいう自治連合会が組織の中に含まれていないこと



2-2. 桔梗が丘自治連合協議会

◆ 組織運営と合意形成、事業評価プロセス

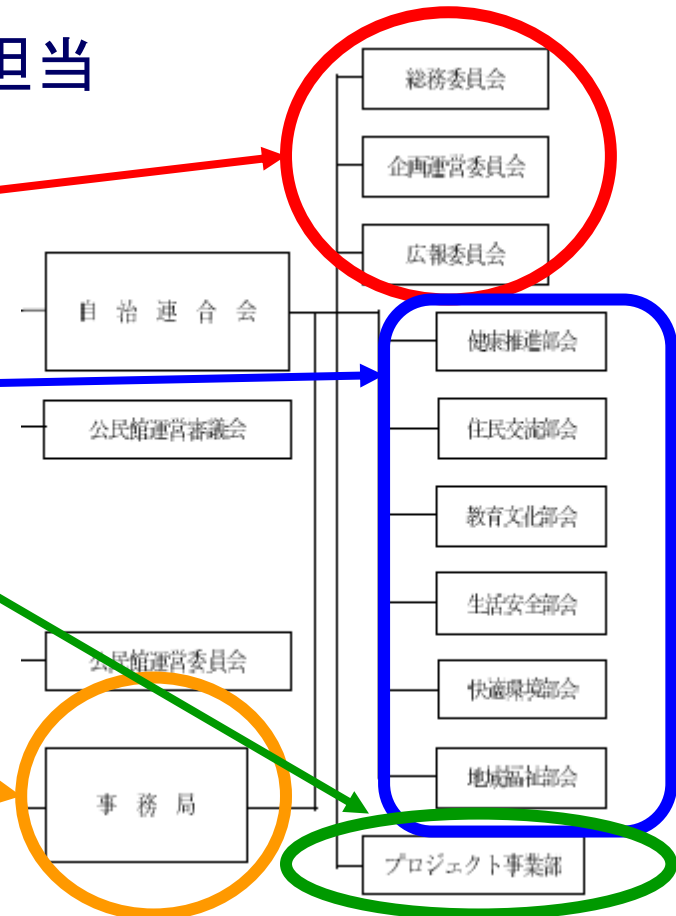
◆ 日常の組織運営は下記部門が担当

◆ 3つの委員会

◆ 6つの事業部会

◆ 1つのプロジェクト事業部

◆ 事務局



2-3. 桔梗が丘自治連合協議会

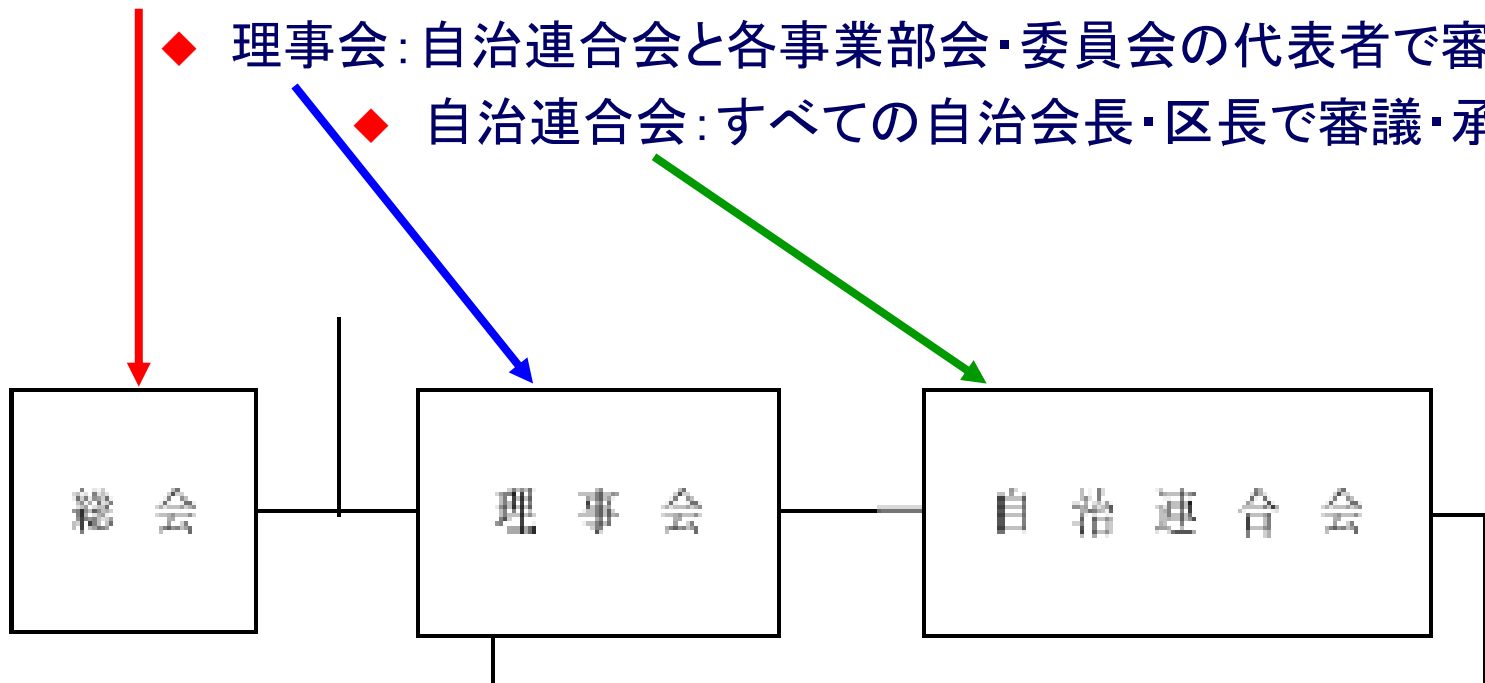
◆ 組織運営と合意形成、事業評価プロセス

◆ 合意形成は下記3つの会議体で行われる

◆ 総会：評議員による審議・承認

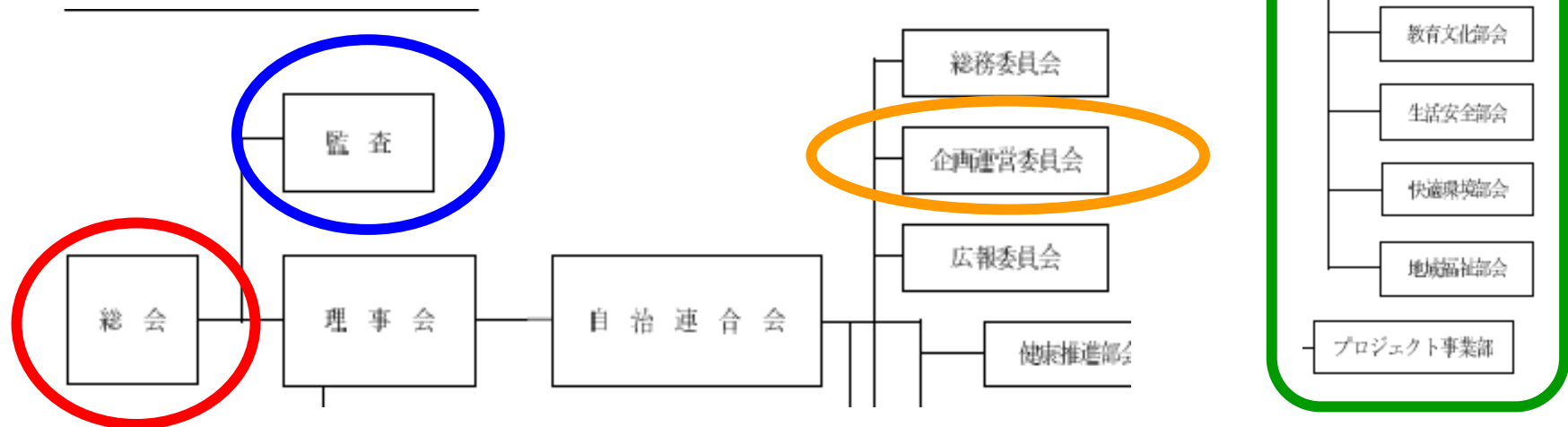
◆ 理事会：自治連合会と各事業部会・委員会の代表者で審議・承認

◆ 自治連合会：すべての自治会長・区長で審議・承認

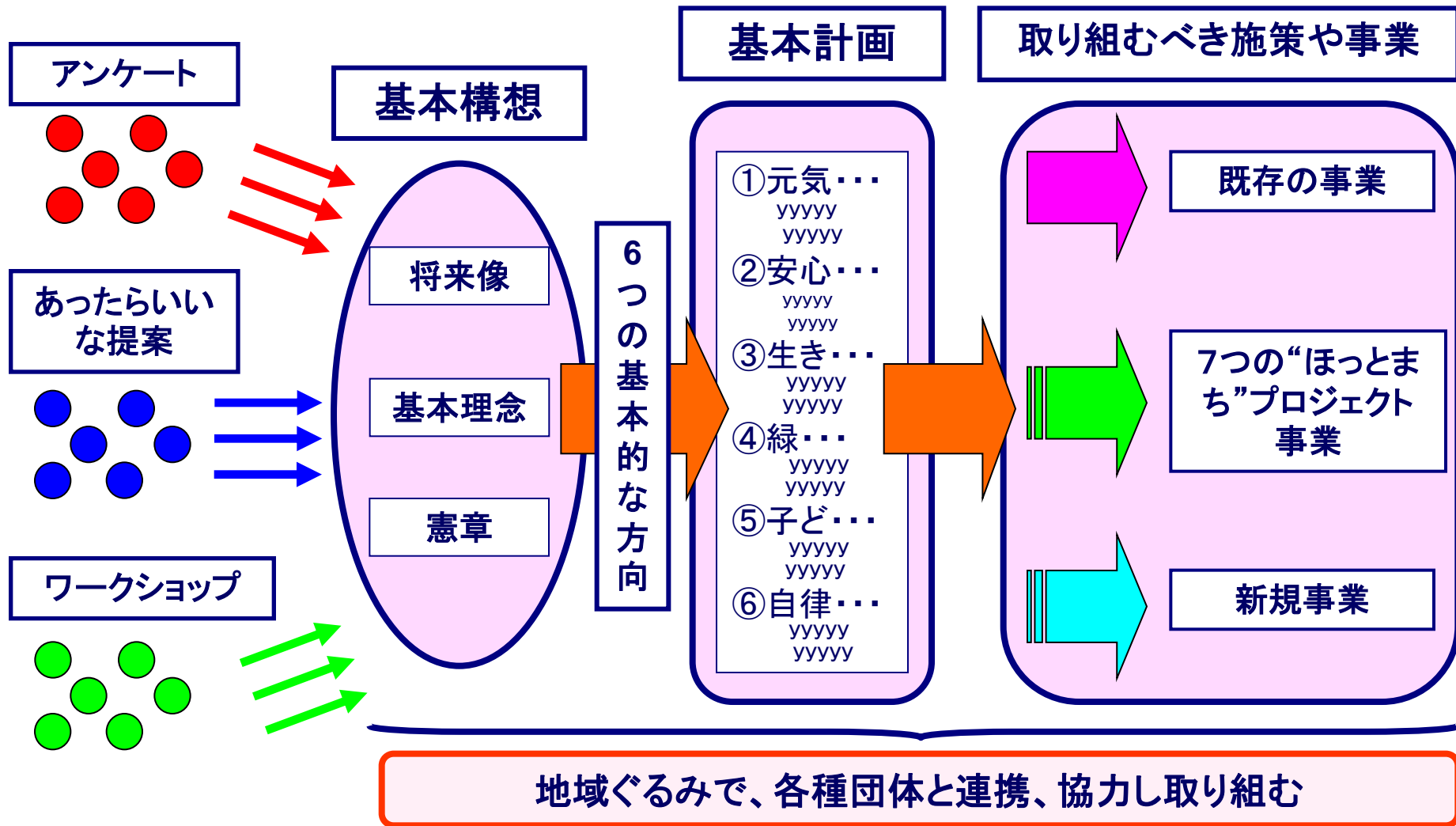


2-4. 桔梗が丘自治連合協議会

- ◆ 組織運営と合意形成、事業評価プロセス
 - ◆ 下記3つの組織が事業評価機能を持つ
 - ◆ 総会
 - ◆ 監査
 - ◆ 各事業部会(自己評価)
 - ◆ 企画運営委員会(総合評価): 評価後理事会に報告



3. 地域ビジョン策定プロセス



3-1. 地域ビジョン策定プロセス

“ほっとまち”プロジェクト事業

1. 「桔梗が丘お助けセンター」の創設 H26試験運用開始
2. 「ききょう学び舎」の創設
3. 「ききょう農楽(らく)園」の開設 H26創設
4. 「地域環境ねっと」の構築
 - 4-1. みどり環境整備保全事業 H26創設
 - 4-2. 住居表示設置事業 H26創設
5. 「地域まもり隊」の創設
(既に自治会単位では活動が始まっており、
全体での組織化が今後の課題)
6. 子どもたちと地域の絆づくり事業の創設 H25創設
7. ほっとまち茶房ききょうの開設 H25開設

4. 課題と解決への取組み

- 公民館活動、各事業部会活動、プロジェクト事業で類似する事業の存在
- 担い手不足
- 予算確保
- やりたいことと出来ることのギャップ

4-1. 課題1: 類似事業

- 公民館活動、各事業部会活動、プロジェクト事業で類似する事業の存在

公民館事業	事業部会事業	プロジェクト事業
サイエンスメイト”スカラベ”	桔’ ずセミナー	あそびつくすin東小
ロビー歌声広場		歌声喫茶
”農”を楽しむ		ききょう農楽園
ストレッチ	健康リズム体操	
料理教室	桔’ ずセミナー	
	生き物ウォッチングなど	あそびつくすin東小 週末課外授業

4-2. 課題解決1: 類似事業

- 少しずつ協働事業を進め、最終的にソフトランディングを目指す
 - 具体的には、一つの組織が主催していた事業に「あいのり」の形で別の組織が共催を持ちかける→例: 快適環境部会事業の「初夏の生き物ウォッチング」に子どもたちと地域の絆づくり事業の「週末課外授業」が「あいのり」する
 - 公民館活動との連携は、桔梗が丘自治連合協議会が公民館の指定管理者であることを強みに、各事業部会活動とプロジェクト事業との融合を図っていきたい

4-3. 課題2:担い手

■ 担い手不足

- 現在活動中のメンバーも高齢化が進んでおり、若い世代の参画が必要
- 多くの定年退職者が存在するはずであるが、顔が見えない
- 具体的な指示に基づき活動できる人はいても、企画運営の受け手がいない

4-4. 課題解決2: 担い手

- 定年退職した人が地域活動に入っていけるよう「地域デビュー」を促す
 - 昨年11月の「地域フェア」で公民館、各事業部会、各プロジェクト事業を紹介
 - さらに、この「地域フェア」は既に活動している人たちの交流も目指した。意外とお互いの活動を知らないため

4-5. 課題3: 予算

■ 予算確保

- 名張市からの交付金、各自治会からの会費収入が現在の財源
- 収益事業となるべきコミュニティビジネスの検討は今後の課題
- 既存事業継続の予算確保が必要で、新規事業が独自の財源を探らなければならない

4-6. 課題解決3: 予算

- 各事業部会やプロジェクト事業で独自に補助金を申請する。そのために普段からアンテナを張っておくことが必要
 - 環境に関する助成金や、放課後子ども教室事業助成金獲得実績あり
- 既存事業の優先度見直しによって新規事業への予算配分を検討要
- コミュニティビジネスについては情報収集を継続
- 人件費分は自分たちで汗をかく

4-7. 課題4:ギャップ

- やりたいことと出来ることのギャップ
 - やりたいこと、やらねばならないことを実現するために「ヒト・モノ・カネ・ソフト」が足りない

4-8. 課題解決4:ギャップ

- やりたいことと出来ることのギャップ
 - ギャップを埋めるのは住民の熱い想いと、みんなで共に流す汗
 - 「カネが無いなら汗をかけ！」
 - 桔梗が丘自治連合協議会の礎である24の自治会(区)が持つ、人的ネットワークを最大限に生かす(自治連合協議会の強み)
 - いろいろな事業が目的であると同時に、住民同士のコミュニケーションの醸成や住民ネットワーク構築の手段として機能している
 - 事業に関わる人たちは、みんな健康で元気。これが医療費抑制にも寄与
 - ノウハウやソフトの導入は、外部とのコミュニケーションで

5. みんなで汗をかく



2016/2/20-21

桔梗が丘自治連合協議会

5-1. みんなで汗をかく

みんなで汗をかいた後は
チョー気持ちイイ！！



6. まとめ(まちづくりに大切なこと)

1: 手弁当で汗をかく

2: 会議室を飛び出し、現場で現物を見て現実的に考える(三現主義)

3: 必要なのは「人」

ありがとうございました

人の心が織りなす幸せ社会
“ほっとまち”桔梗が丘

“ほっとまち”憲章

- 地域活動を通じて広く社会に貢献しましょう
- あいさつを交わすコミュニティを育みましょう
- 未来を託す子どもたちを地域ぐるみで育みましょう
- 自分らしさを発揮し、地域とのつながりを深めましょう
- 自然を守り、心地よい環境を創りましょう

付録. ビジネス社会との違い

1: 効率よく ➡ 非効率のよさ

2: 速く大量に ➡ ゆっくり少しづつ

3: 結果重視 ➡ プロセスが大事